

「2023年度大会アンケート」回答のまとめ

将来計画特別委員会

日本中国学会第75回大会は、2023年10月7日・8日、大阪大学を会場として、対面にて開催された。それを受けて、同年10月半ばから翌年2月末日まで、本学会ホームページにおいて、「2023年度大会アンケート」を行ったところ、175名から貴重な回答を得た（去年は198名、一昨年は118名）。回答に協力くださった会員各位に心より深謝申し上げる。

すでに「日本中国学会便り」本年度第1号（2024年4月30日発行）の委員会報告において、アンケート結果は概説したので、ここでは、I～VIの六項目に分けて、その詳細を報告する。

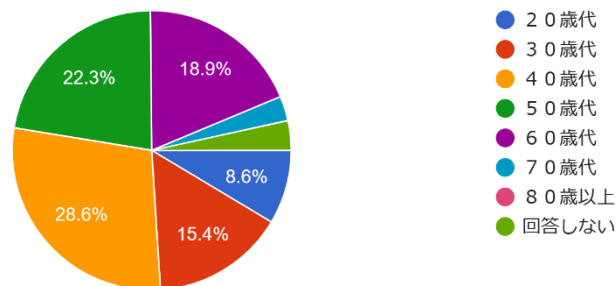
なお、自由記述に関しては、分量の都合により、やむを得ず、全文の掲載を見送ったが、全文は理事会に報告の上、理事間で情報を共有していることを申し添える。

また、各グラフの基線は、いずれも時計の3時に位置する。

I. 回答者について

■回答者の年齢

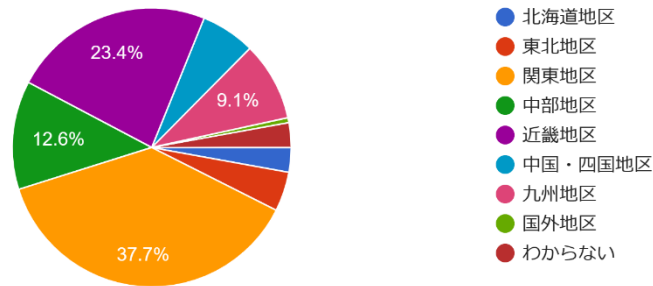
貴方の年齢をお選びください。



175件の回答のうち、「20歳代」15名（8.6%）、「30歳代」27名（15.4%）、「40歳代」50名（28.6%）、「50歳代」39名（22.3%）、「60歳代」33名（18.9%）、「70歳代」5名（2.9%）、「回答しない」6名（3.4%）であった。

■回答者の所属地区

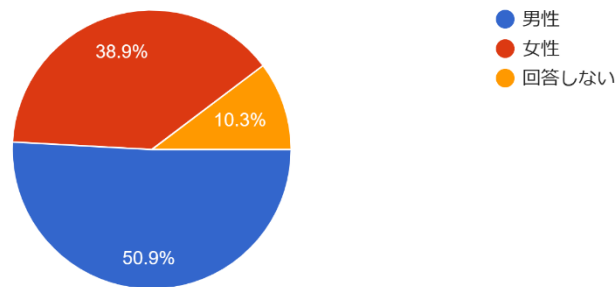
貴方の所属地区をお選びください。



175 件の回答のうち、「北海道地区」5 名 (2.9%)、「東北地区」8 名 (4.6%)、「関東地区」66 名 (37.7%)、「中部地区」22 名 (12.6%)、「近畿地区」41 名 (23.4%)、「中国・四国地区」11 名 (6.3%)、「九州地区」16 名 (9.1%)、「国外地区」1 名 (0.6%)、「わからない」5 名 (2.9%) であった。

■回答者の性別

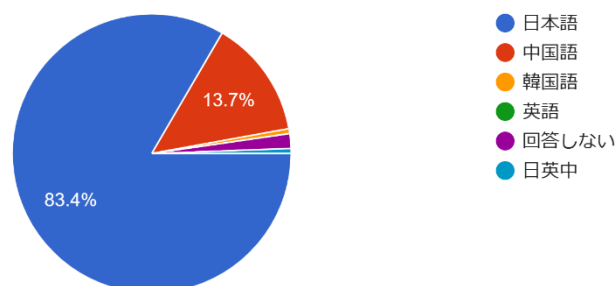
貴方の性別をお選びください。



175 件の回答のうち、「男性」89 名 (50.9%)、「女性」68 名 (38.9%)、「回答しない」18 名 (10.3%) であった。

■回答者の主たる使用言語

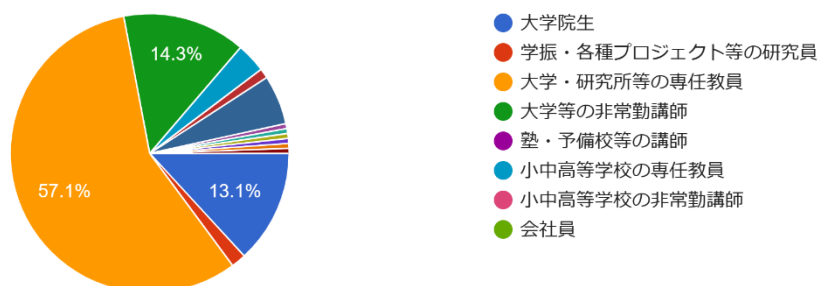
貴方の主たる使用言語をお選びください。



175 件の回答のうち、「日本語」146 名 (83.4%)、「中国語」24 名 (13.7%)、「韓国語」1 名 (0.6%)、「日本語・英語・中国語」1 名 (0.6%)、「回答しない」3 名 (1.7%) であった。

■回答者の職業

貴方のご職業をお選びください。

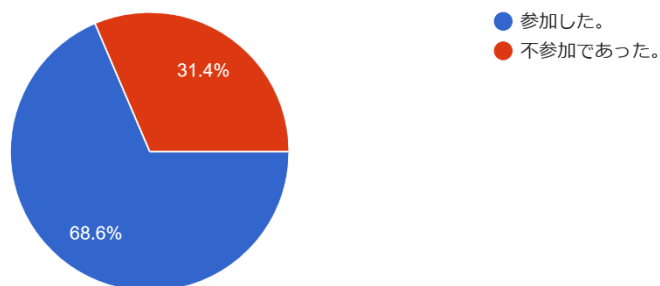


175 件の回答のうち、多い順に「大学・研究所等の専任教員」100 名（57.1%）、「大学等の非常勤講師」25 名（14.3%）、「大学院生」23 名（13.1%）、「小中高等学校の専任教員」6 名（3.4%）、「学振・各種プロジェクト等の研究者」3 名（1.7%）、「公務員・団体職員等」2 名（1.1%）、「元大学専任教員・大学教員退職者」2 名（1.1%）、「大学名誉教授」2 名（1.1%）、「大学の任期付講師」1 名（0.6%）、「無し」1 名（0.6%）、「回答しない」10 名（5.7%）であった。

Ⅱ. 大会への参加・不参加について

■大会への参加・不参加

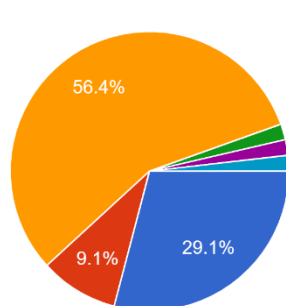
10 月 7 日・8 日の大会に参加されましたか。



175 件の回答のうち、「参加した」120 名（68.6%）、「不参加」55 名（31.4%）であった。

■不参加の理由

不参加であった理由をお選びください。

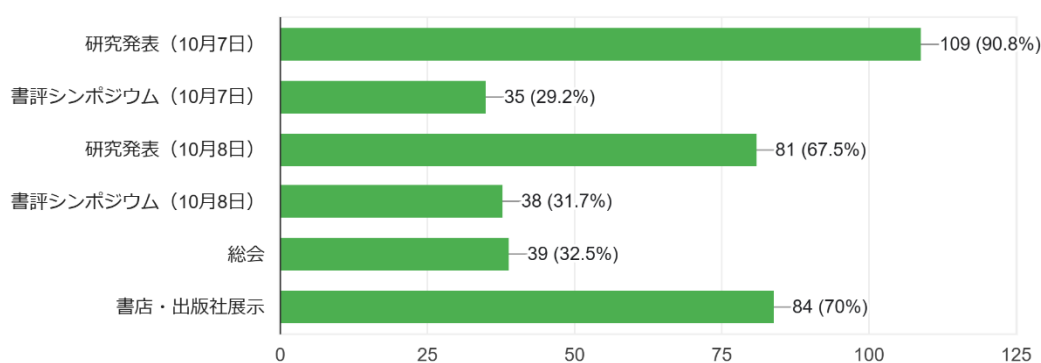


- 当初から不参加の予定であった。
- 参加するつもりであったが、都合がつかなくなった。
- オンライン配信であれば、参加したいと思ったが、配信が行われなかった。

55 件の回答のうち、多い順に「オンライン配信があれば、参加したいと思ったが、配信が行われなかった」31 名（56.4%）、「当初から不参加の予定であった」16 名（29.1%）、「参加するつもりであったが、都合がつかなくなった」5 名（9.1%）と続いた。

■大会参加者が参加したプログラム

参加された方。そのプログラムをお選びください。複数回答可。

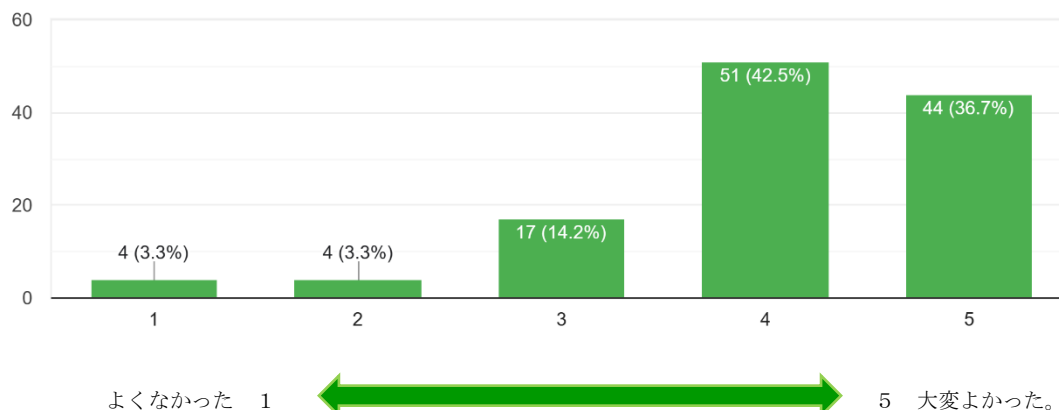


120 件の回答のうち、「研究発表（10 月 7 日）」109 名（90.8%）、「研究発表（10 月 8 日）」81 名（67.5%）、「書評シンポジウム（10 月 7 日）」35 名（29.2%）、「書評シンポジウム（10 月 8 日）」38 名（31.7%）、「総会」39 名（32.5%）、「書店・出版社展示」84 名（70%）であった。

Ⅲ. 大会の実施方法について

■大会の実施方法

大会の実施方法はいかがでしたか。次の中からお選びください。



120件の回答のうち、[5]（大変よかった）44名（36.7%）、[4]（よかった）51名（42.5%）、[3]（どちらともいえない）17名（14.2%）であった。[2]（あまりよくなかった）[1]（よくなかった）は各4名（3.3%）であった。

▼よかった点、改善の余地がある点（自由記述）

大会の実施方法について、よかった点、改善の余地がある点など自由にご記入ください。

自由記述では、対面による開催について、「久々の対面による大会で、会場に活気があり、とてもよかった」「対面のみの方が集中できる」「久しぶりに多くの研究者とお会いすることができた」「対面式での懇親会もあり、学術研究情報の交換ができた」など、支持する意見が多かった。

また、会場の施設に関しても、「会場内での教室移動が容易で助かった」「企画から運営まで、とてもよかった」「十分な数の休憩室や荷物預かり室など、細かいところまで行き届いていた」など、肯定的な意見が多くあった。

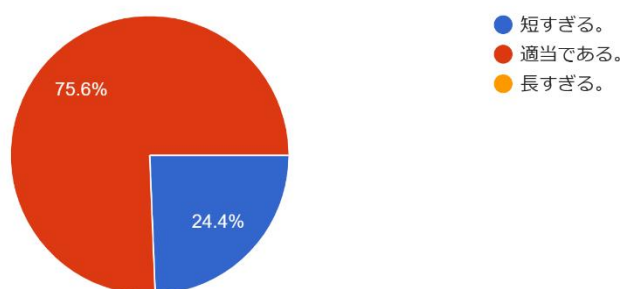
一方で、「発表資料が足りないことがしばしばあった」「発表資料を追加してほしい」「資料なしで発表を聴く人がないように、発表資料は数日前にアップロードするのがよい」「レジュメはQRコードなどで、ダウンロードできるようにした方がよい」など、発表資料の不足とその改善策が多く寄せられた。

また「教室が少し狭かった」「モニターが小さく、パワーポイントの文字が見にくかった」「聞きたい発表が同時帯に重なった。もう少し発表を絞り込んでもよかった」など、一部改善を求める意見も見られた。

さらに「オンライン併用が望ましい」「研究発表とシンポジウムはオンラインでも聴講できる方がよい」「会場校の負担を考えれば致し方ないが、研究発表会場を減らしてもハイブリッド型にしていただけるとありがたい」など、ハイブリッド型での実施を希望する意見があった。

■研究発表・質疑応答の時間

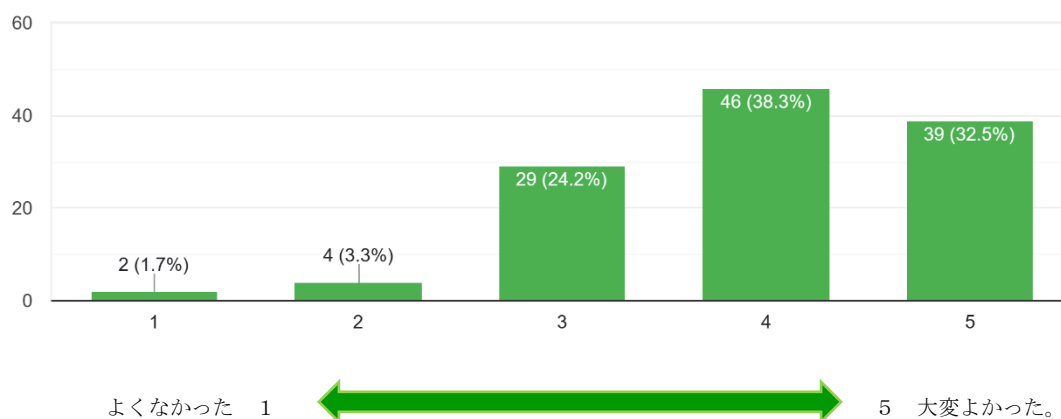
研究発表・質疑応答の時間（25分間）についてはいかがでしたか。



119件の回答のうち、「適当である」90名（75.6%）、「短すぎる」29名（24.4%）であった。

■司会のコメント、質疑応答の方法

司会のコメント、及び質疑応答の方法についてはいかがでしたか。



120件の回答のうち、[5]（大変よかった）39名（32.5%）、[4]（よかった）46名（38.3%）、[3]（どちらともいえない）29名（24.2%）、[2]（あまりよくなかった）4名（3.3%）[1]（よくなかった）2名（1.7%）であった。

▼よかった点、改善の余地がある点（自由記述）

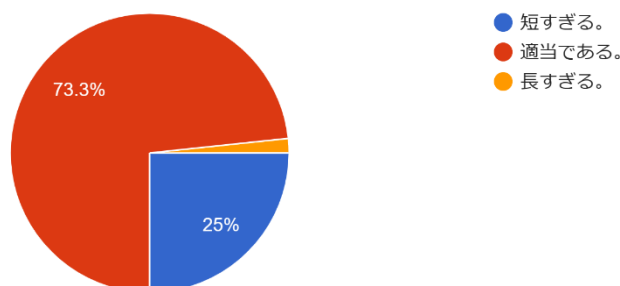
自由記述では、発表の時間は「適当である」という意見が多かったが、質疑応答の時間について、「質疑応答の時間がもう少しあれば更に議論が深まったと思われる」「質疑応答の時間が短く、議論が盛り上がりつつあるところで時間切れになったのは、少し残念に思う」「質疑応答は10分欲しい。5分だと遠慮して、手が挙げにくい」など、延長を求める意見が見られた。

また、司会について、「司会がよく機能していた」というコメントがあった一方で、「長い質問に対しては司会から注意すべきである」「時間厳守すべきである」「議論の枠をせまく設定してから質疑に移られた司会がおられた。自由に議論してもらった方が良いのではないか」などの要望も寄せられた。

さらに、「質疑があまり活発でなかった」「フロア参加者からの質疑がやや少ない」などの意見があった。

■発表と発表の間の休憩時間

発表と発表の間の休憩時間（5分間）についてはいかがでしたか。

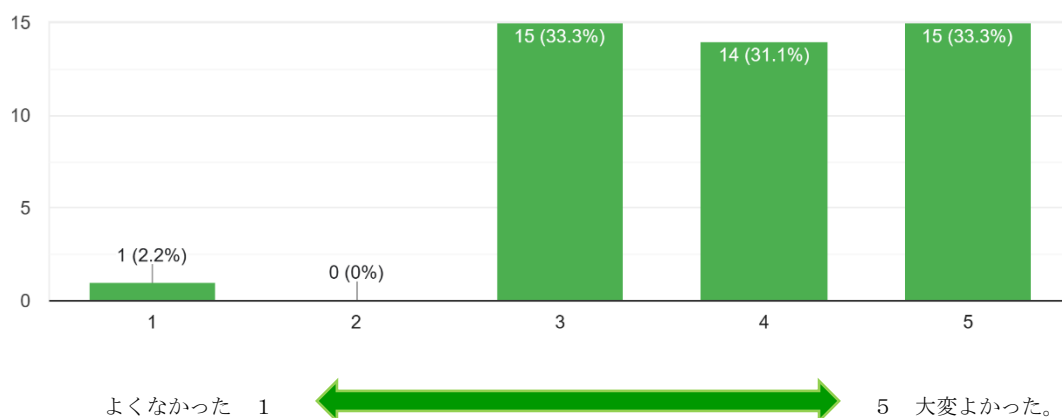


120件の回答のうち、「適当である」88名（73.3%）、「短すぎる」30名（25%）、「長すぎる」2名（1.7%）であった。

自由記述に「個別の発表と発表の間に5分間のインターバルを設けたのはありがたかった」というコメントがある一方で、「発表と発表の間の休みは、同じところで聞き続ける場合5分で問題ないが、別の会場に移動したい場合には短いかもしれない」という意見もあった。

■総会

総会に参加された方におたずねします。総会の内容についてはいかがでしたか。



45件の回答のうち、[5]（大変よかった）15名（33.3%）[4]（よかった）14名（31.1%）、[3]（どちらともいえない）15名（33.3%）であった。

自由記述には、「会場のバックの書法が、大変に良かった」というコメントがあった。

IV. 大会の全般について

■第 75 回大会に関する意見等

その他、第 75 回大会に関して、お気づきの点やご意見などがありましたら、自由にご記入ください。

「アンケートの実施は良い。今後は各発表についての評価も実現してほしい。また、当日にアンケートを行うと、休憩時間やホテルへの移動中にでき、回答率が上がるのではないか」などの意見があった。

V. 書評シンポジウムの実施について

■書評シンポジウム開催に関する意見等

今回の第 75 回大会では、昨年度大会に引き続き、書評シンポジウムが開催されました。書評シンポジウムの実施について、ご意見があれば自由にご記入ください。

「多角的な視点から意見交換がなされ、若い研究者が広い視野をもって研究に取り組もうとするよい刺激になると思った」「発表者の発表、コメント共に興味深く、大変勉強になった」「とても有益だと思う。今後も続けてほしい」「どちらの書評シンポジウムも拝聴したが、かなりきわどい、こちらが冷や冷やするような質問にも、著者が冷静に回答しておられ、通常の研究発表以上に盛り上がったと思う」「とりあげられた書物はもとより、様々な時代の文学についても考察が展開していく、示唆に富む内容であった。企画された方々、登壇された方々に感謝したい」など、肯定的な意見が多く寄せられた。

その一方で、「当該の書物を読まなければならないという制約があるので、参加者が自ずと限定されるのではないか」「特定の書物のみ学会で取り上げることは、公平性に欠ける」といった意見があった。

さらに「質疑応答の時間をもっととり、会場のやりとりを増やすとよい」「古典だけでなく近現代領域からも書籍を選んでいただきたい」「若手の優れた業績を中心に紹介する方向性で進めてほしい」「新刊の書評もよいが、すでに定評のある書物に対する再評価を試みる書評シンポジウムもあってよい」「オンラインなどで外部に公開されるべきではないか」「当該書籍を入手して読むため、早めに内容を知らせてほしい」「書評シンポジウムは、研究発表と重ならないよう、大会とは別の日にオンラインで開催すれば良い」などの意見や要望が見られた。

VI. 託児所の設置について

■託児所の設置に関する意見等

今回の第75回大会では、託児所が設置されました。託児所に関して、ご意見があれば、自由にご記入ください。

「育児中の研究者の研究機会確保のため、是非とも続けてほしい」「過去に利用した。大変ありがたかった」「たとえ利用者が無くても設置していただきたい」「子連れの参加がしやすくなり、子育て世代の研究者にはありがたい」「設置するのが当然で、このアンケート項目がなくなるのがあるべき将来の姿だと思う」など、大半が肯定的な回答であった。

VII. 日本中国学会全般について

■日本中国学会に対する意見・提言等

日本中国学会全般について、ご意見やご提言などがありましたら、自由にご記入ください。

大会の実施方法について、「完璧な質などは求めないで、大会はオンラインと併用してほしい」「様々な事情で参加できない人のために、ハイブリット方式の開催を希望する」「様々な事情で出向くことができない人のために、ハイブリッド開催を希望する」「評議員会はオンラインでも参加できるようにした方がよい」など、ハイブリッド型での開催を希望する意見が少なくなかった。

また、「デジタル化をより強力に推進してほしい」「『日本中国学会報』のデータ化、Web公開を進めてほしい」など、刊行物等のデジタル化に関する意見が寄せられた。

その他、「理事長を始め、理事が以前より改革に対して積極的で、つとめてよい方向へ改善しようとする前向きな姿勢がよいと感じる」「中国学が存続していけるように、学会のメンバーひとりひとりが力を発揮できるような仕組みがあるとよい」「業績のために発表をする会員が多いように感じた」「多くの部会で、ほとんどが外国人留学生の発表という形になっている。将来の日本の中国研究を支えるために、学会としてどう考え、行動していけばよいのか、考えていく必要がある」

「日本漢学部会を中国周縁地域漢学（または漢文学）部会に発展的解消するのはどうか」「大学図書館単位では書籍購入が紙・電子とも難しくなり、特に中文書について資料収集の段階で格差が激しくなっている。学会として国に働きかけられないか」「入会時の推薦者は保証人のような役割かと思われるが、本当に必要なのか」など、さまざまな角度からさまざまな意見や提言が見られた。